

公益財団法人日産財団 第2回リカジョ賞の選定について〈講評〉

選考委員長 長谷部 伸治

公益財団法人日産財団では、「理科教育助成」対象校の中から2年間の取組を通じて優れた研究成果をあげた助成校に「日産財団理科教育賞」を授与しています。昨年度よりこの理科教育賞に加え、女子児童・生徒の理科への関心を顕著に高めたと評価される実践に取り組んだ個人または団体を対象とした「日産財団リカジョ賞」を創設致しました。

本年度は、2018年9月1日から2019年2月28日までの公募期間に、昨年度（14件）を上回る申請を得ました。これまでに他の賞を受賞した活動やメディアに取り上げられ話題となっている活動も多く、非常に内容の充実した18件の応募の中から、本財団理科教育助成選考委員会において書面選考を行い、第2回日産財団リカジョ賞候補として下記の3件を選定しました。そして、第二次書面選考において各申請の実践内容を精査し、1件をリカジョ賞グランプリに、2件を同準グランプリに認定しました。

【第2回日産財団リカジョ賞 グランプリ】

和歌山信愛中学校・高等学校 酒井 慎也 氏

理科の中でも女子生徒が比較的苦手とする物理・化学分野について、授業や部活動を通じた実験・観察体験カリキュラム「Wakayama shin-ai Science Program (WSP)」の持続的な活動を評価する。特に、中高一貫校である特長を生かして高度な研究テーマにチャレンジしている点や、企業や大学と連携して活動を行っている点を高く評価する。HP上の「サイエンス・ラボ」の発信内容を見ても、生き生きと活動している様子がうかがわれる。この受賞を機に、申請書でも述べられている、中学校物理分野のオリジナル実験書の充実を期待する。

【第2回日産財団リカジョ賞 準グランプリ】

チーム チョコレイト・サイエンス

チョコレートという身近で女子児童・生徒が関心の高い素材を題材として、そ

の品質に結晶構造が関与している点に着眼し、科学が実生活と深く結びついていることを広報する活動を評価する。特に、結晶構造の作り分けという高度な内容を、チョコレートを題材とすることにより、参加者に飽きさせずに実験や解説を行うプログラムに仕立てている点は、非常に洗練されたものとして高く評価する。

【第2回日産財団リカジョ賞 準グランプリ】

学校法人大谷学園 大谷中学校・高等学校 科学部

電気は生活に不可欠な要素であるが、女子生徒にとって物理の中でも苦手意識が高い分野である。そのような分野において、身近に入手できる材料を使って、市販のバンデグラフ型起電機以上に実用的な実験装置を製作し、かつ改良を継続している活動を評価する。今後、展望で述べられているように、発生した電圧の測定法の確立等、現象の定量的な把握についての活動に期待したい。